

公益財団法人林レオロジー記念財団  
大学院生及び大学生の奨学生募集要領

令和4年度 大学院生及び大学生の奨学金申請用 [第9回奨学生]

1 応募資格

(1) 未来に役立つ理論・メカニズムの設計工学・ロボット工学・AI技術・IT技術・制御工学等の自動製造システムに関する学問を習得又は学術研究を志す工学部・理学部系の大学院生および大学生、若しくは「食品産業に関する」農水産学部・生命科学部系等の大学院生および大学生を対象とし、かつ次の①から③の条件をすべて満たしていることが必要です。

- ① 令和4年4月に大学3年若しくは大学4年に進級する人、または、大学院前期(修士課程)の1年生に進学を希望する人若しくは大学院前期(修士課程)の2年生に進級する人。(9月進学者は除く)
- ② 品行方正で学習意欲の高い人。
- ③ 学業成績が一定水準以上の人。

(2) 前年度応募者および前年度奨学生であっても、応募資格を有するものとします。

(3) 他の奨学金制度に応募し、又は他の奨学金制度を現に利用している場合は、その財団が併給可の場合のみ、応募資格を有するものとします。

2 奨学金

①	給付額	大学院生	月額50,000円	年額600,000円
		大学生	月額30,000円	年額360,000円
②	給付期間	学部3年生に進級する人	令和4年の4月1日より令和6年3月31日までの2年間とします。	
		学部4年生に進級する人	令和4年の4月1日より令和5年3月31日までの1年間とします。	
		修士1年生に進学を希望する人	令和4年の4月1日より令和6年3月31日までの2年間とします。	
		修士2年生に進級する人	令和4年の4月1日より令和5年3月31日までの1年間とします。	
③	奨学金の返還	返還は要さないものとします。		

3 採用人数

大学院生20名、学生10名程度とします。

4 応募書類(各1)

① 奨学生願書(指定用紙)

※ 指定用紙にリンクします。

② 自己紹介(A4用紙片面1枚)

③ 大学学長、研究科長、学部長または大学教授の推薦書(必須;指定用紙)

※ 指定用紙にリンクします。

④ 課題小論文

小論文の課題: 下記の課題について論述してください。

私が研究テーマとして考えたい、SDGs(持続可能な開発目標)について

「食品産業・製造業(科学技術)等の分野において、自分が研究テーマとしたい

SDGsの課題、現在取り組んでいる研究テーマについてのSDGsについての課題」

字数の制限: 750字以上800字以内(原稿用紙2枚にまとめること)

原稿用紙: 本財団指定の原稿用紙に自筆で論述すること

※ 原稿用紙にリンクします。

なお、2回以上応募者される方は、前回の小論文の内容とは別の内容で記載してください。  
小論文の内容が類似であると判定された場合には、失格となることがあります。

- ⑤ 専門課程における研究実績等の報告書（A4用紙4枚以内にまとめること）  
（研究実績等がある場合のみで結構です：自由記入）
- ⑥ 大学院に進学する予定の応募者は、大学院での専攻課程がわかる合格通知等の写し
- ⑦ 在学証明書
- ⑧ 成績証明書（大学院生は、学部の成績と入手できる直近までの成績証明書を提出。）  
（大学生は、入手できる直近までの成績証明書を提出。）  
（高等専門学校からの編入学の場合は、高等専門学校の成績証明書を提出。）
- ⑨ 個人情報の取り扱いに関する同意書（指定用紙）

※ 指定用紙にリンクします。

- ⑩ 住民票（両親と兄弟姉妹全員分及び同居の家族分を提出【2親等まで】・戸籍全部事項証明書でも可）

## 5 応募人数の制限と応募書類の送付先

各大学の学部毎の応募人数は、1名程度でお願いいたします。

各大学院の研究科毎の応募人数は、1名程度でお願いいたします。

大学毎に一括して、次の宛先に送付してください。

〒320-0071

栃木県宇都宮市野沢町2番地3

公益財団法人 林レオロジー記念財団 事務局

## 6 募集開始及び応募書類の提出期限

募集開始：令和3年8月1日（日曜日）から受付

提出期限：令和3年10月31日（日曜日）必着

## 7 奨学生の選考方法

書類・小論文のみで選考するものとし、面接等はいりません。

選考の結果は、遅くとも令和4年2月24日（木曜日）までに学生課等を経由して本人に通知します。

## 8 その他

- ① 応募の前に、必ずホームページ（アドレス）等で奨学金制度について詳しい内容を確認してください。
- ② 応募に必要な「指定用紙」はホームページの応募用紙（※リンク先）から適宜プリントアウトしてください。
- ③ 応募書類は、事務処理のためホチキス等で綴じないでください。
- ④ 本奨学金を受給したことによるレオン自動車株式会社への入社等その他の付帯義務はありません。
- ⑤ なお、募集要領及び応募用紙等に修正が生じた場合は、当財団のウェブサイトに掲載させていただきます。
- ⑥ ご不明な点がありましたら下記へお問い合わせください。

〒320-0071

栃木県宇都宮市野沢町2番地3

公益財団法人 林レオロジー記念財団 事務局

電話：028-688-0251

FAX：028-688-0252

E-mail：hayashi\_rheology@rheon.com

ホームページアドレス：<http://www.hayashi-rheology.or.jp>

家 庭 調 査 書														
申 請 者	所 属	_____学群 _____学類 _____年次												
	学籍番号										性別	男・女	現住所	〒 _____ 市 ( ) _____
	フリガナ													
	氏 名													
家 族 及 び 所 得	就 学 者 を 除 く 家 族	続柄	氏 名	年齢	職 業	在職 期間	勤 務 先 名 称	給与所得の収入 金額 (税込)	給与所得以外の 所得金額					
		父				年		万円	万円					
		母					年		万円	万円				
		父または母 死亡・離別の場合 時期 ( 年 月) 理由 ( )												
		主たる家計支持者無職等の場合 時期 ( 年 月) 理由 ( )												
							年		万円	万円				
							年		万円	万円				
							年		万円	万円				
							年		万円	万円				
	別 居 者 に ○ 印	就 学 者	続柄	氏 名	年齢	学 校 名	設置者別	学校種別	通学別	控 除 額				
本人					筑波大学	国立		※自 宅 自 宅外	万円					
						※国公立 私 立	※小・中・高・高専・大学 専修 (高等・専門)	※自 宅 自 宅外	万円					
						※国公立 私 立	※小・中・高・高専・大学 専修 (高等・専門)	※自 宅 自 宅外	万円					
家 庭 の 特 殊 事	特別控除項目			控除有無										
	障害者がいる世帯			※有・無	続柄 ( )	氏名 ( )	手帳番号 ( )	万円						
	その他													
本 人 の 状 況	家庭からの給付		月額 ( 千円)				認 定							
	アルバイト		月額 ( 千円) 内容 ( )				総収入金額		① 万円					
	奨学金	受給中	月額 ( 千円) 団体名 ( )				必要経費		② 万円					
		申請中	月額 ( 千円) 団体名 ( )				特別控除額		③ 万円					
	その他の収入		月額 ( 千円) 内容 ( )				総所得金額		④=①-②-③ 万円					
学 業 成 績	評 価	高等学校	5	4	3	2	1	平 均 値	収入基準額	世帯人数 人				
		大学 (院)	A	-	B	C	-			⑤ 万円				
	修得単位数または科目数								家計充足率		⑥=④÷⑤×100			

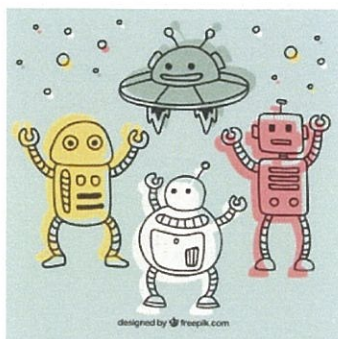
- (注) 1. 太線の枠内を記入し、※印は○で囲むこと。
2. 「給与所得の収入金額」欄は、申請の前年1年間の収入金額を記入し、所得証明書、源泉徴収票(写)を添付すること。  
(父と母が給与所得者の場合は父と母両方添付すること。年金受給者の場合は年金振込通知書(写)。失業者は雇用保険受給資格者証(写)。
3. 「給与所得以外の所得金額」欄は、申請の前年1年間の収入金額から必要経費を控除した金額を記入し、確定申告書(写)等を添付すること。  
(父と母が確定申告をしている場合は父と母両方添付すること。)
4. 「家庭の特殊事情」欄について、障害者のいる世帯については障害者手帳(写)、その他については証明するものを添付すること。
5. 「学業成績」欄については、1年次生(編入学生を含む。)にあっては出身学校の成績を記入(科目数で平均値を算出)し、成績証明書を添付すること。2年次以上の者にあっては、前年度までの成績(修得単位数で平均値を算出)を記入し、成績証明書を添付すること。

# 令和4年度 理工学系の学生・大学院生の奨学生募集ご案内

林レオロジー記念財団は、理工系の学生、大学院生を積極的に支援しています。

機械システム工学を専攻している学生・大学院生、電気・電子工学を専攻している学生・大学院生、ロボット工学を学んでいる学生・大学院生、AI・IoT等の技術やプログラミングを学んでいる学生・大学院生の応募を待っています。

食品製造システムを研究・開発するためには、上記の多くの技術の応用が必要です。皆様の将来は無限に広がっていますので、希望する進路にとらわれることなく、ぜひ理工系の学生、大学院生も奮ってご応募ください。



ロボットの活用と  
IoTによる生産管理

